OTARU UNIVERSITY OF COMMERCE

GAKUEN DAYORI

16 MARCH 2012
No.166

小樽商科大学
学園だより

「ふるさと」としての緑丘

学長 山本 眞樹夫

卒業記念号

学園だより

No.166 16 MARCH 2012
OTARU UNIVERSITY OF COMMERCE

題字は　山本眞樹夫　学長

小樽商科大学校歌

時　雨　音　羽　作詞

杉　山　長谷夫　作曲

(一)

金鱗おどる渺々の
あけぼの称う浪の唄
エルムの花に若人の
涯なきのぞみ数々秘めて
夢うるわしの緑ケ丘よ

(二)

夕陽映える白樺の
梢をわたる風の唄
慈愛の山のふところに
銀翼みがき駿足秘めて
唄ほがらかの緑ケ丘よ

(三)

蒼穹はてず道つきず
はるかに仰ぐ北斗星
栄冠迎うこの胸に
飛躍の力ひととき秘めて
花咲き匂う緑ケ丘よ

(四)

健腕拓く五大洲
凱歌はあがる我母校
感激みてる若人の
血潮に清き教えを秘めて
春永遠の緑ケ丘よ

若人逍遥の歌

高　島　　茂　作詞

宮　内　　泰　作曲

口上

春風颯々として山河をめぐり
百花繚乱の盛夏となりぬ
霧水来たりて百山紅を呈し
龍田の朔北（と）なれば暗雲天空を覆い嵐を呼び
紅山白山と化しその白雪の中に身を埋める
その厳しき天地のすべ我等が俗世と何の関わりが有ろうか
連山残雪に覆われし頃比の朔北の地に移りし我等なれば
何を悩み何をば求めん
俗世の安楽冥利とは大海に漂う塵の如し
我等その塵に何ぞ命を託さんや
今こそ悪夢より覚醒出でて
打ち寄する荒波の如き熱き血潮を持って杯をかかげん
春 宵の暁にいざいざいざ歌わんかな我等が命を

(一)

琅玕融くる緑丘の　春曙を彷徨へば
浪漫の靄に街沈み　風悠久の言葉あり
瀾朶の桜花吹雪つつ　慌しくも逝く春の
伝統ふるき学舎に　展ける海の涯しなき

(二)

夏白樺に囁やきて　ハイネの詩を口誦さむ
眉目美わしき眼差の　又なき時のいとおしさ
断崖落ちて波砕け　オタモイ遠く帆走れば
小樽の嶺々の夕あかね　冴ゆる北斗に嘯ぶきぬ

(三)

秋粛条の思い濃き　ポプラに懸かる雲消えぬ
流転の行旅夢に似て　悩みの思惟を誰か知る
感傷笑うことなかれ　桜ケ丘にたたずみて
泪滂沱と憂愁の　落葉の行方 哲うかな

(四)

氷雪海に傾きて　月寒ければ繻とかん
晦冥行路遠けれど　われに港の乙女あり
流星落ちて影もなし　行く青春の足音に
生命を惜しむ若人は　永却の杯酌まんとす

CONTENTS

■平成23年度卒業生諸君に
学　長　　山　本　眞樹夫…… 2

■卒業生へ
副学長（総務・財務担当）和　田　健　夫…… 4
副学長（教　育　担　当）大　矢　繁　夫…… 5
副学長（大学評価・中期目標担当）奥　田　和　重…… 6
社団法人 緑丘会
公益財団法人 小樽商科大学後援会
理事長 齊　藤　愼　二…… 7
緑丘会からのお知らせ …… 8

■卒業生インタビュー
社会情報学科　松　本　陵　佑…… 9
社会情報学科　神　　涼　平…… 10
社会情報学科　齋　藤　由香里…… 11
社会情報学科　浜　野　哲　也…… 12
経　済　学　科　平　田　　主…… 13

■修了にあたって
商学研究科現代商学専攻　王　　力　勇 …… 14
商学研究科アントレプレナーシップ専攻　阿　部　眞　久 …… 15

■商大掲示板
平成23年度 学生表彰 …… 16

■平成23年度 小樽商科大学就職状況 …… 17

■退職教員あいさつ
経済学科特任教授　加　藤　睦　洋…… 20
一般教育等 特任教授　片　岡　正　光…… 22
アントレプレナーシップ専攻 特任教授　相　内　俊　一…… 24

■教員名簿 …… 26

■小樽商科大学学術研究奨励事業
第6回「学生論文賞」 …… 28

■卒業後に卒業証明書等が必要になったとき …… 32

■写真でみる小樽高商・商大小史㉝ …… 33

平成23年度 卒業生諸君に

「ふるさと」としての緑丘

卒業生，修了生の諸君，卒業，修了おめでとう。諸君は，2011年度という特別の年度に卒業します。特別という意味の一つは，本学創立百周年の年度だったということです。昨年7月には，本学創立百周年祭を諸君と共に祝うことができ，同窓生や市民と共に感動を共有しました。そしてもう一つの意味は，昨年3月11日に発生した東日本大震災と大津波，それにともなう福島原子力発電所事故という，わが国の未曾有の困難に対し，そこからの復旧，復興に立ち上がった最初の年度だということです。おそらく，諸君は2011年という年を一生忘れることはないでしょう。

東日本大震災からすでに一年が経ちました。しかし被災地の復興は進まず，原子力発電所事故はいまだ進行中です。そんな中，「きずな」という言葉が多く語られ，また「ふるさと」という唄が折に触れて歌われ，心に強く訴えかけてきます。直接には，被災によって，あるいは原子力発電所事故によ

る避難によって，寄るべき「ふるさと」を喪失し，また家族や友，地域社会との絆を断たれた人々に向けられた言葉であり唄だと思います。しかし，われわれ一人ひとりが，いかに「ふるさと」という拠り所と，家族や友そして地域社会との絆によって生かされているのだということに，改めて気付かされたことの証ではないでしょうか。

本学では来年度，「震災と復興」という授業科目を開設します。授業では，大震災の教訓を共に考え，それを風化させず，そして大震災後の日本の在り方を展望する手掛かりをえたいと思います。私は，大震災の折に被災地の人々がみせた驚くべき秩序正しさ，忍耐強さ，そして心優しさが，われわれ日本人一人ひとりの心の中にある限り，日本は世界から称賛される見事な復興を成し遂げると信じています。

さて，昨年7月に行われた本学創立百周年記念式典，祝賀会そして創立百周年祭には，予想以上に多くの同窓生，市民そして関係者が集まってくれました。そして同窓生同士が友や先輩後輩との絆を確かめ，強めているのを目にし，緑丘もまた「ふるさと」であることを強く感じました。

日本はこれから超高齢化社会となります。従来のような経済効率の追求やマネーゲームによる成長は期待できません。むしろ，世界の多様な価値観の認識と理解，地球環境との共生，地域社会の絆といった，グローバルな視野をもった「きずな」や「優しさ」が価値を持ち，新たな成長の核となるように思います。学生という最も多感な時期に東日本大震災の被災者の無念に共感し，本学創立百周年で同窓の絆の強さを目にした諸君こそ，大震災後の新たな日本の成長モデルを描ける人材だと確信しています。

そして，本学が今後も諸君の誇りとなる「ふるさと」で在り続けるよう，われわれ教職員も努力します。諸君の活躍を期待します。

平成24年3月16日
国立大学法人小樽商科大学長

山本 眞樹夫

副学長（総務・財務担当）
和田　健夫

卒業生・修了生の諸君に

長い研鑽を経て，緑丘を去る諸君に心からお祝いを申し上げます。教職員一同，諸君と生活を共にしたことを誇りに思います。

日本人の心に永遠に刻まれる2011年3月11日の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故。発生から1年を迎えるにあたり，犠牲になられた方々，今なお苦難を強いられている方々に，改めて，哀悼と一日も早い復旧・復興を祈念申し上げます。

3月11日のできごとは，日本人が戦後拠って立ってきた価値観や生き方に大きな変革を迫るものでした。多くの人々が，長い発展のなかで日本人が忘れかけていた習慣，心情，考え方などに思いを馳せました。後戻りはできない状況のもとで，われわれは，歴史から学びつつ，人類に天が与えた能力＝協働する力と未来を信ずる心でもって，生きていくことが必要です。

2011年は本学が創立以来百周年を迎えた年でした。その歴史を振り返ってみますと，小樽商科大学が，創立者渡邊龍聖（小樽高等商業学校初代校長）の建学の精神を守りつつ，時代の要請には柔軟に対応しながら，他に類のない個性を発揮してきた大学であるとの思いを強くします（北に一星あり，小なれどその輝光強し）。学窓を巣立つ諸君は，このような大学の一員として誇りを持って生きてください。私は，日本人のもつ優れた能力・資質，意欲を信じています。同様に，これから更に長い人生を生きなければならない諸君の将来を期待しています。

難しい時代にあって，大切なことは，個人の力，自律した意識と行動ではないでしょうか。しかし，このことは，各自が勝手気ままに生きればよいということを意味しません。自律した意識・行動は，高い倫理観を伴うものであり，他の人々や異文化と共生する心によって育まれるのです。卒業後も，修養と自省を怠らないようにしてください。

副学長（教育担当）
大矢　繁夫

卒業・修了おめでとう

卒業・修了おめでとうございます。
今，心から，喜びの気持ちを表します。

最近，日本の貿易収支が31年ぶりに赤字となったことが報じられました。わが国の製造業や金融業，そして農業も，必死で活路を探っています。震災のツメ痕も深いままです。実に難題が山積みです。

この状況の中で，諸君は商大を卒業し，社会に乗り出します。責任感と自立した心を持つ，有能な人材として，諸君は期待されます。諸君の世代は，漂流感を強める現在の社会の活路を見出すべく，重い期待がかけられます。

しかし，そのような状況に臆することはありません。怯懦と逡巡は無用です。諸君には，何よりも，商大で受けた教育があります。改めて思い返してください。実学，語学，品格です。

実学の力，それは，深い専門知識を，他領域に跨る広い視野に支えられて応用し活用する力です。

語学の力，それは，自己を世界に向けて発信する力です。

品格の力，それは，時代がどのようであれ，人間と社会をポジティブに見つめようとする気高い心から生じます。誠実さや倫理観，他者を思いやる感性など人間の善きものは，そこから生じます。

小樽商大が百年に亘って弛むことなく営んできたこの教育は，諸君の中にその種子を埋め込みました。どうか諸君は，より意識してこの種を育て，開花させ，これからの人間と社会を創造し，それを支え，リードしていってください。

そのような諸君の人生は，潤いと喜びに満ち，活力に溢れると信じます。今，心から，諸君の卒業を讃えます。

副学長（大学評価・中期目標担当）
奥田　和重

卒業生・修了生のみなさんへ

卒業生，修了生の皆さん，卒業・修了おめでとうございます。皆さんが小樽商科大学で学業に励まれ研鑽を積まれて本日の学位記授与式を迎えられたことは，私ども教職員にとっても大きな喜びであり，また誇りにも思います。

皆さんは小樽商科大学で多くのことを学ばれたと思います。学ばれたことは知識として蓄積され，これからの人生の糧になることでしょう。この知識は皆さんがこれから送る社会生活の中で有用な知識になり，皆さんが社会で活躍されることによって社会に貢献することになります。昨年の未曾有の大災害から立ち上がるために，皆さんが得た知識は積極的に活用されることでしょう。このように知識は社会に役立つという役割がある一方で，知識は個人の人格の成長ーすなわち品格に関わるものであることを忘れることはできません。ご存じのように小樽商科大学は1911年（明治43年）に小樽高等商業学校として創立され，それ以来「実学，語学，品格」を教育の柱にしてきました。この品格は，学問をすることで知識を修得し，それによって高められるものです。品格を高めるということは，他の人から評価されることを目的とするのではなく，自らの人格の完成を追求するものです。個人の品格を高めることは，個人だけにとどまらず社会にとっても有用なものであることに留意しなければなりません。皆さんが大学を巣立った後も学問を続け，品格を高めることが社会にとって大変意味あることだということです。大学を卒業・修了することで，学問をすることは完了した，品格は高まったと考えるのは早計でしょう。学問を続けることには謙虚な姿勢で臨まなければなりません。

大学は学問を続けるための場を用意しています。いつでも帰ってきてください。私ども教職員はそのような皆さんを歓迎します。

祝辞

社団法人 緑丘会
公益財団法人 小樽商科大学後援会
理事長 齊藤　愼二

卒業生の皆さん，ご卒業おめでとうございます。

今，大きな夢と希望を抱いて，緑丘から，まさに，第一歩を踏み出さんとしている皆様に心からお祝いを申し上げます。

また，ご子弟の健やかな成長を願ってこられたご家族の皆様，並びに，ご指導にあたってこられた先生方のお喜びもひとしおのことと拝察し，ここに，小樽商科大学の同窓会である「社団法人緑丘会」及び「公益財団法人小樽商科大学後援会」を代表し，一言，お祝いを申し上げます。

さて，我が国は，社会構造の変化への対応が遅れ，また，将来への夢のある展望を切り開けず，政治経済とも厳しい閉塞的ともいえる状況にあります。

少子高齢化，財政，教育，福祉，円高，環境など国内の課題に加え，グローバルな対応への課題も抱えております。

加えて，大震災からの復興，原発事故への対応など解決すべき問題は山積しております。

まさに，社会システムの変革やグローバル競争への対応が急がれているところであります。

このような時期に卒業され，社会人となり，または，上級の研究課程に進まれる皆様にはますます研鑽を積まれ，一層成長され，自らが先頭に立ち，社会に貢献されるように切に希望します。

ところで「社団法人緑丘会」は1939年（昭和14年）に法人化され，全国に26の支部を有し，会員6千名余を擁しております。緑丘会員は，ビジネスの分野のみならずまた，国の内外を問わず，目覚ましい活躍をしております。

「社団法人緑丘会」は，諸先輩の永年にわたるご活躍により，その活動と強い結束力は各分野から高い評価を受けております。

これからも会員相互のネットワークと，母校支援をさらに強化してまいります。

また，1960年（昭和35年）には，母校の学術振興に対する助成を推進するために「財団法人小樽商科大学後援会」を設立いたしました。

小樽商科大学後援会は，全国の国立大学の同窓会として他に例を見ない規模で緑丘会員を中心として寄付を受け，公益事業を推進する観点から母校を支援してまいりました。

母校は，小樽商科大学後援会の募金を原資として，国際交流の促進，札幌サテライトの開設運営，ビジネス創造センターの設置，輝光寮の建設等，特色ある事業を展開し，目覚ましい成果をあげてまいりました。

本日ご卒業される皆様には，伝統ある「社団法人緑丘会」に正会員として入会され，緑丘会員相互の交流を図るとともに，母校を支援する緑丘会の事業活動の発展のため是非とも若い力を発揮いただけるように大いに期待いたします。

皆様の洋々たる前途を祝福し，併せてご多幸とご健闘を祈念し，お祝いの言葉と致します。

小樽商科大学同窓会（社）緑丘会

事務局からのお知らせ

事務局長よりメッセージ

社団法人 緑丘会 常務理事
事務局長 桶谷　喜三郎
（昭和41年卒）

皆さま，ご卒業誠におめでとうございます。

国内外ともに，極めて多難な状況が続いていますが，この緑丘から実社会へと大きな希望を抱いて巣立つ皆さまに心からお慶びを申し上げたいと思います。

小規模大学の伝統的な強みは，卒業生の結束が固く絆が太いことです。

激烈な競争の企業社会を過ごしてきた経験から申し上げますと，この大学の先輩はみな優しく親切です。いろいろな局面で助けていただきました。人脈の輪を広げて，視野を広げるためにも是非，緑丘会に入会することをお勧めいたします。

札幌駅西隣にオープンしています「札幌サテライト」には，大学当局のご好意により，緑丘会・札幌事務所と札幌支部のスペースを提供していただいております。皆さまのベースキャンプとしてご利用ください。

また，東京には緑丘会館があります。ちょっと小樽と母校の薫りがするオアシスとして，また東京の足場として是非ご利用ください。テレビ会議システムや無線LANなどのIT環境も整っています。卒業生は勿論ですが，在学生および教職員の方々，ご家族の皆さまのご来館もスタッフ一同心からお待ちしています。

業務日誌（抜粋）

2011年

5月21日	若手OB/OG会員・ホームカミングパーティ　（於　緑丘会館）
6月11日	社団法人緑丘会　第72回通常総会／東京支部総会
	東京支部講演会
	講師:小樽商科大学　副学長　大矢繁夫氏
7月 9日	札幌支部／小樽支部　総会
10月22日	第1回オープンセミナー（若手OB/OG会員向け講義）
11月28日	小樽支部忘年会
12月 3日	東京支部講演会
	講師:作家　道伝はるか氏

2012年

1月 5日	
～6日	東京就活体験会，現役学生／OB/OG交流会
7日	東京支部新年交礼会
	東京支部講演会
	講師:ニューヨーク市立大学経営大学院教授　高田博和氏
2月11日	札幌支部新年交礼会

（社）緑丘会本部，会館所在地（入会及びその他の問い合わせ）

（社）緑丘会本部・東京事務所
〒170-6057 東京都豊島区東池袋3丁目1-1サンシャイン60(57階)
Tel 03－3981－2340　Fax 03－5396－4011
URL http://www.ryokyu-web.net/　E-mail：ryokkyukai@axel.ocn.ne.jp

（社）緑丘会本部・小樽事務所
Tel 0134－27－5463（月～金　午前10時～午後4時）
（小樽商科大学事務棟2階）

（社）緑丘会本部・札幌支部
〒060-0005 札幌市中央区北5条西5丁目sapporo55ビル（3階）
小樽商科大学札幌サテライト内
Tel 011－231－6900（月～金　午前10時～午後4時）
E-mail：ryokyukai@galaxy.ocn.ne.jp

英語教師を目指し入学 部活と体育会の活動もこなした 有意義な学生生活

社会情報学科　松本陵佑さん

体育会会長の仕事に打ち込み さまざまな経験を積む

商大へは，中学校の英語教員を目指していたこと，また中学校，高校と続けていたバスケットを大学でもやりたかったこともあり，入学を決めました。希望がかない，春からは札幌市内中学校の教員として臨時採用が決まっています。英語とバスケットを教えられる教員になれればと思っていますが今は，期待と不安でいっぱいですね。

この4年間を振り返ると，バスケット部入部とともに始めた，体育常任委員会（体育会）の活動に打ち込んだことが思い出に残っています。体育会は各部活から数名ずつが集まり，メンバーは全員で40～50名くらい。1～2年生のときは連絡係程度の仕事だったのですが，3年生になったとき前会長から「次はぜひきみに！」と，半ば強制的に会長を任されました（笑）。会長の主な仕事は，まず週2回開かれる委員会をまとめることです。体育会は本気で勝ちを取る部活の集まりです。どの部も少しでも多く練習時間を確保したいため，合宿所や体育館の割り当てが大変でした。そこを均等にし，トラブルが起きないように話し合いが必要でした。ほかには，15～20団体ある部活同士の交流会，イベントの企画運営を行います。各部から4～5名を集めて少人数で行うものですが，これが2カ月に1回の頻度で開催するので，忙しいです。

基本的に全ての部が参加し，教室でゲームを行ったり，飲み会で親睦をはかるものです。商大はクラス制ではないので，友達をつくる機会になってくれればという思いもありました。後輩たちが「イベントのおかげで，仲間が増えて交流できました」「部活を越えて友達ができました」などの声を聞くのがうれしくて，がんばって続けられたのだと思います。

複数の物事を効率よくこなすための スキルが身についた

また年に1度，体育会主催の研修会も行っていました。例えば，消防団の人に来てもらって，救急救命講習会，栄養士を招いて栄養についての講演会を行うなどしました。企画から招く方へのアポとりや開催に向けた書類の作成，当日の運営まで，ほかのスタッフもサポートしてくれましたが，初めての経験でしたのではじめは戸惑いました。しかし，これらの経験は会長を引き受けなければできなかったことですし，社会人になってからでも使えるスキルだなと思いました。

自分はバスケット部所属でしたので，体育会と並行して週5日の練習がありました。試合で北見，旭川など，道内各地いろいろな場所へ行けたことなどは楽しかったのですが，4年間，教職の単位をとりながらだったのでとても大変で，2～3年生のときはもう，いっぱいいっぱいでした。効率よくいろいろなことをするためにはどうしたらよいかと，自分なりに工夫をし，それが身についたことは大きかったです。

商大で学生生活を送ることができ，本当によかったと思います。自分の希望していたことはすべて得られましたし，先輩から礼儀もきっちりと教えられました。さまざまな活動を通して経験したことは，これから教師の道を進むにあたり，生きてくるのだと感じています。

やりきったときの達成感をフルに味わった４年間

社会情報学科　神　涼平さん

商大のメインイベント 緑丘祭の実行委員長を務めた

大学に入学したとき，高校生までとは違いクラス制ではありませんでしたし，また決まった時間割があるわけでもなく，自由といえば自由な校風ですが「これは自分で能動的に行動しないと，何もできないまま4年間が過ぎてしまうぞ」と思いました。勉強以外で何をやろうかと考えたとき，学園祭の仕事は高校でも経験があったので，緑丘祭実行委員会に入りました。

緑丘祭は大掛かりで，開催翌月には次の年の準備が始まります。また自主性が高く，何から何まで学生たちがやるのが特徴です。企画立案から予算の内訳を出して自治会に申請し，芸能人やお笑い芸人を呼ぶ場合は，業者を介してですが，連絡をとりスケジュール調整や打ち合わせをするなど，数々の仕事があります。3年生のときには実行委員長に選ばれ，引き受けました。委員長ともなると「もっとお客さんを呼びたい」「こんなことをやりたい」など欲が出ました。そして新しい試みとして，普段，触れ合う機会がない昼間主と夜間主の合同イベントを開催し，成功させました。その翌年は商大100周年記念のお祭りで，委員長は引退していましたので，経験者として裏方でサポートしました。4年間，ずっと緑丘祭にかかわってきたのは，とてもやりがいがあり，仲間に囲まれた楽しい活動だからでした。たった数日間のために約1年間も働くなんて，という人もいます。その通り，準備に長期間かかり，夜遅くまで残り作業を続け，当日はただ走り回り，緑丘祭恒例の流しそうめんも食べたことはありませんし，ゆっくり見て味わったこともありません。開催の2日間は一瞬で過ぎ去ります。3日目の4時にお祭りが終わり，ステージ前で3年生の胴上げをし，スタッフの集合写真を撮るのが慣例なのですが，女の子たちが号泣する中，「やりきったぞ！」と，その時が感動の瞬間です。私も胴上げをされました。この素晴らしい瞬間のためにやっているようなものでしたね。実行委員会の仲間とは引退後もよく飲みに行くなど，かけがえのない友になっています。

ゼミの討論大会では 発言力や物事の見方が身についた

勉強面では，ゼミのイベントで年に4回開かれる「ディベート大会」が有意義でした。4つのゼミが合同で行うもので，例えば「死刑制度について」や「捕鯨」など，テーマに沿って賛成派と反対派が討論会をし，勝敗をつけるものです。物事を論理的に，掘り下げて考えられるようになりましたし，数字やニュースの見方などが身につきました。そのおかげで就職活動の面接では，特別に緊張することもなく人前で話すことができました。また，面接では必ず「学生時代に頑張ったことは何ですか」と聞かれることが多いのですが，胸を張って緑丘祭実行委員の経験を答えることができました。

学生は勉強のほかにサークル，部活や資格取得，バイト，留学など何でもできます。何にでも貪欲にやる気をもってチャレンジしないともったいないですよ。

生協学生委員会の活動一筋 この経験で自分が ひとまわり大きくなれた

社会情報学科　齋藤由香里さん

心細かった推薦受験の日 生協学生委員の人が優しく接してくれた

私は商業高校だったので就職を考えていたのですが，高校の先生のすすめで商大を受験し入学しました。ほかの大学では，商業と情報の勉強を両方とることはできなかったですし，法学や経済など，いろいろな知識を得ることができるのが，商大のよいところだと思います。

岩手出身の私は県外に出たことがなく，商大の推薦受験のときが初めての遠出だったので，とても心細かったことを覚えています。そのときに，生協学生委員会を知りました。委員会の先輩方が相談会で話をしてくれたり，大学生活についての冊子をくださったりなどとてもお世話になりました。私も，後輩たちに対して何かをしたいと思い，入学後すぐに生協学生委員会に入りました。

生協学生委員会とは，校内にある大学生協の店舗，食堂を拠点として，大学生協に加入する学生のみなさんがよりよい学生生活を送ってもらうための活動をする団体です。もっとよい店舗にしよう，学生がどんな商品がほしくて，お昼には何を食べたいのかなど学生のニーズを洗い出し，生協職員の方々といっしょに考え実行します。

私は2年生のときに1年間，委員長を経験しました。それまで，リーダーなど経験したこともなかったのですが，前任の委員長がとても素晴らしい先輩だったので，引き受けることで，私もそのような存在になれるかもしれないと期待しました。活動は週1回の会議のほか，チームごとの会議が週に何度もあり，他にもたくさん考えること，やることがあり，委員会が頭から離れる時間はありませんでした。メンバーは30名ほどいましたが，みんなに支えてもらった1年間でした。

活動を通して交友関係も広がり 性格の短所も克服できた

中でも，大学から依頼されて企画した国際交流イベントの成功は私に自信を与えてくれました。生協学生委員会としては私の代ではじめて行う試みで，留学生といっしょに折り紙を使い，大きな1枚の絵を作るイベントでした。日本人の学生たちよりも，留学生の方のほうがよほど折り紙に詳しかったですね。完成した絵はしばらく大学のロビーに飾っていました。ほかに年に1度開かれる，総代会ではたくさんの人に呼び掛け，参加してもらい，堅いイメージの会に，クイズ形式やムービーを取り入れわかりやすいものにしました。3年生で委員長を引退し，4年生からは，大学生協北海道ブロックの支援をする活動に参加しました。月に1度，東京での会議があり，全道や全国に友達ができました。ほかのサークルなどには入らず，バイトもほとんどせず，学生生協の活動一筋。途中でくじけそうになったこともありましたが，あきらめずに続けてよかったです。人見知りがあり，物事を人に聞くことが苦手だった私が，それを克服できたことは成長でした。何でも経験してみると違いますね。たくさんの経験を積むことができた貴重な大学生活でした。

1年中キャンパス内で過ごした かけがえのない大学生活

社会情報学科　浜野　哲也さん

多いときは10以上のサークルに所属 勉強と両立し充実した毎日

4年間を振り返り，自分ほど毎日大学に通い，1日中大学内で過ごした学生はいないと思っています。朝8時代から夜9時～10時まで，勉強とサークルのミーティングや活動など，スケジュールがびっしりでした。

その忙しさの理由は，商業高校の教員志望だったので，商業の教員免許のほか，普通高校の情報処理の教員免許に必要な単位もとる必要があったことがひとつ。それに加え，多いときで10以上のサークルに所属し，授業の合間はそれらに没頭していました。小樽活性化のために立ちあげた「小樽笑店」の創立メンバーだったほか，商大のOB・OGを訪問し，インタビューをするサークル「グリーンヒルネットワーク」や，会計サークル「会計プロジェクト」。商大100周年記念イベント「ITサミット」の委員会メンバーになって，日本マイクロソフト社に訪問し，企業紹介を社長の前でプレゼンしたり，新入生歓迎イベント「ルーキーズキャンプ」の運営に携わったり。毎日，何らかの活動をしていました。さらに夜間主自治会会長として，緑宵祭のバックアップや部活の部費配分などの仕事もありました。

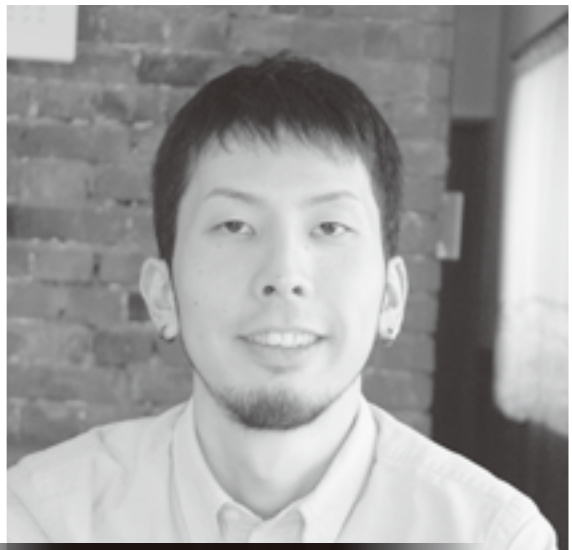
勇気をもって何事もチャレンジすると 自然と周囲から声がかかる

中でも印象に残っているのは，先輩OBからの働きかけもあり，新しく完成した大学寮「輝光寮」へ入居することになったことです。そこでは寮長をつとめました。3年生までは稲穂町で一人暮らしでしたが，4年生で寮へ入ったことで，通常では機会がない1年生との交流ができましたし，寮生同士お互いによい影響を与えあう，価値ある経験ができました。「輝光寮」はきれいで快適。何より学校に近いのでおすすめです。寮の部屋から見える小樽の夜景は忘れられません。

そして，こちらもやはり先輩OBからの働きかけで「応援団を復活させる会」の活動にも加わり，自ら応援団にも入団しました。平成17年以来休団していた応援団が復活したときにはいろいろな人の支援を受け，OBの方々に喜ばれたばかりではなく，多くの人たちに「驚いたよ」「よかった！」など声をかけていただいて，自分のやってきたことは間違っていなかったなと思いました。

商大は小規模な大学ですが，やることは大きく，サークルなどでいろいろな人と密に接し，社会人の方ともつながりができ，縦や横にと幅広い人間関係をつくることができます。私は商大で大学生をやり通し，納得のいく学生生活を送ることができました。学生時代ほど何でもできる時間はありません。「これは自分に向いていない」ではなく，勇気をもって恐れずに何でもやってみる。学生は何度失敗してもOK。あとで考えれば笑い話です。いろいろやっていると，いろいろな方面から声がかかるのです。自分はそんな「声のかかる学生」になりたいと思い，何事も積極的に取り組みました。社会人になってもきっとそれは変わらないと思います。

社会人を経て大学進学
クオリティの高い学ぶ環境
よい仲間に囲まれた４年間



経済学科　平田　主さん

緑宵祭実行委員会の活動で学生らしさを思い出す

私は通常の学生と違い，高校～社会人～大学進学という道をたどってきました。商大入学は中学生のころから決めており，ライフワークであるバンド活動と，経営者になる勉強をするビジョンをずっと持ち続けてきました。入学後はすぐに軽音サークルに入り，50名しかいない夜間主学生の中で3名のバンドメンバーを獲得。現在は4人編成のバンドを組み，活動をしています。

1年生から続けていることでは，ほかに夜間主最大のお祭りである緑宵祭の実行委員です。緑宵祭の準備をしていると，自分が本来の年齢に戻っていく感じが不思議でしたね。学園祭の感覚をしばらく忘れていたからでしょうか。４年生では自治会長からの打診もあり，実行委員長を引き受けました。この経験は大きなものでした。緑宵祭は，夜間学生にとっては大切なコミュニケーションの場です。ちょうど商大の100周年記念の年だったこともあり，より盛り上げようと考え，メインステージの規模をいつもよりも大きくしました。資材の手配から組み立てまで，プロの業者に依頼。前例のないことでしたし，準備期間も1～2カ月で短期間のため，困難はさまざまありましたが，結果的にはそのステージを使ってお祭りを成功させることができました。4度の緑宵祭実行委員の体験を通して，人に理解を求め，人と協力して物事を進めていくことなど，学んだことは多かったです。

商大生はグループワークでディスカッション能力が鍛錬されている

在学中に東日本大震災が起こったことも衝撃でした。震災翌日，自分を含めて5名の有志が集まり，すぐに災害支援をコーディネイトする団体を結成。4日後には団体登記をし，助成金申請もすぐに行うなど，商大にはスゴい学生がたくさんいるんですね。学校内にとどまらない人脈を持つ人が人をつなげ，活動の幅は広がり，さまざまな場所へ出かけて行くようになりました。どこへ行っても「商大ですか？」と歓迎され，商大の存在の大きさを知りました。

実際に商大生は柔和で穏やか。清潔感があって外向きで，プラスのイメージの人が多いです。それは，授業でのグループワーク，グループディスカッションが多いからだと思います。ゼミはもちろんのこと，どの授業の教授にも共通していることは「発言し，自分で考えやりなさい」。商大生は授業の中で人と触れ合い，意見を交わすことを繰り返しているのでコミュニケーション能力や，自分の頭で考える力が強化されています。人前で話す機会が多いので，自然と身なりにも気を遣うようになります。ですから商大生は，就職活動にも強いのだと思います。小規模な大学なのに単位が豊富で教授陣も豊か。普通では出会えないような先生たちばかりでクオリティは高いと思います。新入生の方々にはこの恵まれた環境を最大限に活かし，こぢんまりとまとまらずに，思い切り中身を詰め込んだ学生生活を送ってほしいと思います。

大学院

大学院修了にあたって

商学研究科現代商学専攻　王　力勇

小樽商科大学大学院での２年間は，留学生の私にとって，とても思い出深い有意義なものでした。あっという間に２年間が過ぎ，遂に修士課程の最後の段階に入りました。このメッセージをお願いされたとき「早いな，私も卒業生になるんだ」と感じ，いろんなことを思い出しました。

入学したとき，キャンパス・オリエンテーションに参加して，校内を見て回りました。「小さいな」と思いながらも，高台から小樽市内の綺麗な景色を眺め，大学院での留学生活を始めました。札幌からの通学は大変でしたが，次第に慣れ，通学の２時間を有効に活用するようになりました。たとえば電車の中で，海の景色を眺めながら授業の資料を読んだり，プレゼンテーションの準備をしたり，睡眠不足で寝たりして，思ったよりも早く通学時間が過ぎていきました。春には，綺麗な花を楽しみながら緑の坂道を通いました。秋は，紅葉に彩られた坂が美しかったです。ただし，汗だらけになる夏と，道が滑る冬の通学は大変でした。

２年間の大学院生活ではいろんなことを勉強しました。大学院に入った当初は，日本語がうまくなくて，授業をちゃんと理解できるのか，発表がスムーズにできるのかという心配や不安もありましたが，先生が親切にフォローしてくれたので，頑張ることができました。振り返ると，私はもともと人前で話すのが苦手でしたが，アルバイトで中国語講座の講師や，また国際観光人材育成講座の講師をして，多くの人の前でスムーズにプレゼンテーションをしたり，質問に答えることができるようになりました。

大学院では豊富な知識だけではなく，論理的な考え方や研究方法も学びました。私が修士論文を書き上げることができたのは，指導教員であるプラート先生のご指導のおかげです。先生のもとで適切な研究方法を選び，そして早くから研究の準備を行いました。私は大学院に入る前から，先生とよく相談してきちんと研究計画を立て，それに沿って一歩ずつ研究を進めてきました。研究では，内容分析という手法を用いることに決めました。内容分析をするためにはサンプル・データが必要なため，大学院にまだ入学していなかった私は，2010年1月1日からデータの収集を始め，2010年の1年間分のサンプルを入手し，研究を順調に進めることができました。

留学生として毎日勉強や研究をするほかに，人と交流することも，とても大事だと思い，できる限り積極的に心を開いて日本人の人とも交流しました。その交流を通じて，お互いの国の社会知識，文化，風習などを深く理解できました。そして本では学べないことをいろいろ教えてもらい，自分も大きく成長したと感じています。

２年間の大学院生活はあっという間でしたが，最後に，いつも励まして下さった先生，友人，クラスメートに感謝いたします。２年間どうもありがとうございました。

大学院

修了にあたって

商学研究科アントレプレナーシップ専攻　阿部　眞久

2000年3月16日に道内ワイナリー初のソムリエ資格保有者として小樽市の北海道ワイン株式会社に入社した私は，2006年に32歳で小樽商科大学の夜間主コースへ社会人入学しました。通学はあくまでも個人の希望であり業務の早退扱いでの通学に苦悩したこともありましたが，その年にOBSの説明会に参加し「自らの専門性に高度な経営管理能力を付与する」ことを教育目的としたOBSの修了までを自らの社会人学生としての目標とすることで意識を高めることができました。

実学を重視する小樽商大の伝統や，夜間主コースの所属学科にとらわれず自由に履修科目を決められるという特徴は，学びを即座に業務に反映できるばかりでなく，商学系以外の法学や社会情報などに関しては学部時代に集中して学ぶという選択を可能としてくれました。その結果，仕事を続けながら学ぶことへの効果や私の意欲に対して会社からの理解をいただくことができ，OBSへは会社からの組織推薦学生として入学することができました。そして本日，入社13周年目を迎えると同時に6年越しの念願であったMBA（経営管理修士）の学位を取得できることに感謝と感激をいたしております。

OBSでの2年間は，札幌サテライトの立地環境と設備，17名もの専任教員と多彩なカリキュラム，各企業からのエース級人材をはじめとするさまざまなバックグラウンドや経歴を持った学生が集まる，極めて優れた学習環境の中で過ごしました。私の職場は小樽にあり車通勤でなくては不便な場所にありますが，南小樽駅の近くに車を置かせていただき，授業のない夜にも自習のために通うほどに札幌サテライトは優れた学習環境でありました。

「アントレプレナーシップ専攻」の名の通り，ここで私が学んだことはアントレプレナーシップ（企業家精神）がイノベーションの原動力であり，企業家精神に満ちたリーダーが企業や地域経済を新たな発展に導いていくということです。優れた地域資源を持ちながら，付加価値をつけて売ることのできない北海道経済の構造的な弱点を克服するために，私はイノベーションの実行者としてアントレプレナーシップを燃やし続けていく所存です。

高い専門性と深い内容の講義の理解に加え，睡眠時間や休日の予定などを限界まで削らなくては仕上げられない事前・事後課題に苦しみながらも，指定された期日までに絶対にやり遂げることの繰り返しによって精神面も鍛え上げられました。また，さまざまな経営分析手法やツールを使いこなせるようになっただけではなく，多様な人の意見を聞いていくこと，社会事象に対しても多面的な考察をするという習慣が身についたように思います。

そしてこの2年間でともに学んだ仲間や先生方，先輩や後輩という強力かつ多彩な人脈はOBSに来なければ絶対に得られなかった財産です。先生方の熱いご指導への感謝はもちろんのことですが，それぞれの個性や能力について，グループワークやディスカッションだけではなく，ワイン同好会などのサークル活動，花見をはじめとして頻繁に実施された飲み会等でもお互いをよく知り，苦楽を共にした仲間に出会えたことも本当に素晴らしいことでした。深夜早朝にも関わりなく飛び交う励ましのメールやFacebook等の書き込みがあったからこそ乗り越えられたし，大変さの一方での楽しさや年代を超えた友情，将来への展望などにつながったのだと思います。

修了生それぞれがここで得た知識や経験，人脈を活用し，新たな将来を拓いていくことを願うとともに，先生方とも，OBSの7期生同士とも交流が続いていくことを願っております。

結びにあたり，会社と家族に対しても御礼を申し述べさせていただきます。組織推薦とはいえ社業と学業の両立は部門の上司や同僚の理解もなければ不可能でした。修了後には誠実に積極的に，社業の発展に寄与します。

また，2人の小さな子ども達には，あまり遊んであげられず，妻にも多大な苦労をかけ続けたと思います。私は「北に一星あり，小なれどもその輝光強し」と謳われ，100年の歴史を誇る小樽商科大学の名をさらに高められる人材となり，地域の経済活性化に貢献していくことで，お世話になった先生方，会社と大学，家族へとその成果をお返ししていきます。学部時代の4年とOBSの2年にわたる長期間，本当にありがとうございました。

平成23年度 学生表彰

学生表彰は，①学業の成果が特に優れていると認められる者として，学部の場合，最短修業年限で卒業する者の中から，毎年，成績上位者3名，大学院の場合，現代商学専攻は修士論文・博士論文の成績が特に優れた者，アントレプレナーシップ専攻は最短修業年限で修了する者の中から，毎年，成績上位者1名　②課外活動の成果が特に顕著であり，かつ，本学の課外活動の振興に功績があったと認められる団体又は個人　③本学の名誉を著しく高めたと認められる者　④学長が特に表彰に値すると認めるものに対し，その功績を讃え，今後の励みとなるよう表彰するものです。

被表彰者の選考は，指導教員や顧問教員等の推薦及び学部・両専攻教務委員会の推薦に基づき，学生委員会で審議の上，教授会で決定されます。

平成23年度の学生表彰は，3月16日挙行の学位記授与式において，次の方々と団体に対し，賞状のほかに記念品を贈呈して行われます。

1. 表彰規程第2条第1号　本学における学業の成果が特に優れていると認められる者

（学生番号順）

■学部

学生番号	氏　名	学　科
2008393	二口真理美	商　学　科
2008496	宋　　潔	商　学　科
2009354	西方　篤敬	商　学　科 早期卒業予定者

■大学院

学生番号	氏　名	専　攻
201053	何　　建波	現代商学専攻 博士前期課程
201034	森田　　潤	アントレプレナーシップ専攻
201035	八木　紀郎	アントレプレナーシップ専攻

2. 表彰規程第2条第2号　課外活動の成果が特に顕著であり，かつ，本学の課外活動の振興に功績があったと認められる団体又は個人

団　体　名	推　薦　内　容
小樽商科大学 トランポリン競技部	平成23年第46回全日本学生トランポリン競技選手権大会において，団体戦女子Cクラス準優勝，男子Cクラス準優勝，男子Bクラス第3位をはじめ，シンクロナイズド戦女子Bクラスで優勝するなど好成績を収めた。
小樽商科大学 現代経済研究会	平成23年第15回経済学検定試験（ERE）ミクロ・マクロ「大学対抗戦」で7位の好成績を収めた。

学生番号	氏　名	推　薦　内　容
2008030	石田　一平	平成23年第20回経済学検定試験（ERE）のミクロ・マクロで全国1位に輝いた。
2008274	武田　浩司	平成21年度第65回学生名人戦優勝，平成23年度学生王将戦準優勝のほか，全道学生将棋大会で平成23年第31回，平成24年第32回と連続優勝するなど輝かしい実績を残した。
2008852	山下　将平	全道学生硬式テニス選手権大会のシングルスで優勝5回，準優勝3回，ダブルスで優勝2回，準優勝2回と北海道学生庭球界のトップ選手として活躍した。

3. 表彰規程第2条第3号 その他本学の名誉を著しく高めたと認められる者

団　体　名	推　薦　内　容
江頭ゼミ『小樽ラーメン事典』作成プロジェクト	小樽のラーメン店を全店廻り，その紹介を『小樽ラーメン事典』として刊行した。これは小樽の観光振興および歴史的記録としての価値を持つ。また，このプロジェクトは，新聞でも取り上げられ広く本学の活動を道内市民に広めることに貢献した。
株式会社i-vacs	札幌狸小路商店街を舞台として地域活性化に取り組む大学発ベンチャーとして各種イベントやコラボレーション企画を実施し，学生が主体となって地域活性化に貢献するユニークな活動として新聞などのメディアで取り上げられた。昨年度，札幌市観光プロモーション事業補助金および北海道中小企業総合支援センター加速的創業支援事業補助金の採択を受け，平成23年4月に株式会社として起業した。その取り組みは本学の実学の理念を実践する活動である。

ヘルメスの杖ペーパーナイフ

「ヘルメスの杖ペーパーナイフ」は学生表彰で個人表彰を受けた学生に対して贈呈されるものです。ペーパーナイフの頭部分は，本学の学章「ヘルメスの翼に一星」をデザインしたものです。

ヘルメス（Hermes）は，ギリシャ神話の神の一人で伝令の神，また商業，学術の神とされています。ローマではマーキュリー（Mercury）。

ヘルメスは，2匹の蛇がからみついた翼のついた杖をもち，伝令の神として世界 を飛翔します。

一星は，本学の前身である小樽高等商業学校以来，本学のシンボルとして用いられてきました。「北に一星あり。小なれどその輝光強し。」と謳われた本学の伝統を象徴します。

平成23年度 小樽商科大学就職状況

（平成24年3月9日現在）

1. 進路状況

■商学部

区　分	昼間コース			夜間主コース			合　計		
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
1. 卒業者数	270	178	448	23	22	45	293	200	493
2. 就職希望者数	232	161	393	17	16	33	249	177	426
（内訳）内定者数	227	155	382	17	15	32	244	170	414
（内訳）未定者数	5	6	11	0	1	1	5	7	12
3. 非就職者数（予定含む）	34	14	48	4	4	8	38	18	56
4. 進学者数	4	3	7	2	2	4	6	5	11
5. 不詳者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0
内定率	97.8%	96.3%	97.2%	100.0%	93.8%	97.0%	98.0%	96.0%	97.2%

■大学院

区　分	現代商学専攻（博士前期課程）			現代商学専攻（博士後期課程）			アントレプレナーシップ専攻			合　計		
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
1. 修了者数	5	6	11	3	0	3	23	8	31	31	14	45
2. 就職希望者数	2	2	4	0	0	0	3	1	4	5	3	8
（内訳）内定者数	2	1	3	0	0	0	2	1	3	4	2	6
（内訳）未定者数	0	1	1	0	0	0	1	0	1	1	1	2
3. 既就職者数	0	0	0	1	0	1	19	7	26	20	7	27
4. 非就職者数	3	3	6	2	0	2	1	0	1	6	3	9
5. 進学者数	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
6. 不詳者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2. 産業別・学科別状況

区　分	経済学科		商学科		企業法学科		社会情報学科		合計	
	人　数	%	人　数	%	人　数	%	人　数	%	人数	%
農業・林業	0	0%	0	0%	0	0%	1	1.4%	1	0.2%
漁業	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
鋼業・採石業・砂利採取業	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
建設業	4	3.1%	6	4.3%	1	1.4%	2	2.9%	13	3.1%
製造業	8	6.1%	21	15%	3	4.1%	8	11.6%	40	9.7%
電気・ガス・熱供給・水道業	2	1.5%	3	2.1%	0	0%	0	0%	5	1.2%
情報通信業	9	6.9%	16	11.4%	7	9.5%	18	26.1%	50	12.1%
運輸業・郵便業	5	3.8%	6	4.3%	1	1.4%	1	1.4%	13	3.1%
卸売・小売業	16	12.2%	25	17.9%	4	5.4%	10	14.5%	55	13.3%
金融・保険業	49	37.4%	42	30.0%	22	29.7%	11	15.9%	124	30.0%
不動産業・物品賃貸業	3	2.3%	4	2.9%	4	5.4%	1	1.4%	12	2.9%
学術研究・専門・技術サービス業	3	2.3%	0	0%	2	2.7%	3	4.3%	8	1.9%
宿泊業・飲食サービス業	1	0.8%	0	0%	1	1.4%	0	0%	2	0.5%
生活関連サービス業・娯楽業	2	1.5%	1	0.7%	0	0%	0	0%	3	0.7%
教育・学習支援業	4	3.1%	1	0.7%	4	5.4%	3	4.3%	12	2.9%
医療・福祉	3	2.3%	3	2.1%	0	0%	2	2.9%	8	1.9%
複合サービス事業	8	6.1%	0	0%	2	2.7%	1	1.4%	11	2.7%
サービス業	1	0.8%	2	1.4%	1	1.4%	1	1.4%	5	1.2%
公務	13	9.9%	10	7.1%	22	29.7%	7	10.1%	52	12.6%
就職決定者数	131		140		74		69		414	
就職未定者	3		2		5		2		12	
内定率	97.8%		98.6%		93.7%		97.2%		97.2%	
進学者数	3		2		2		4		11	
非就職者数	11		16		16		13		56	
不詳者数	0		0		0		0		0	
卒業者数	148		160		97		88		493	

3. 企業等別就職・進学人数

区分	企業等名	人数
建設業	パナソニックシステムソリューションズジャパン株式会社	1
	旭化成ホームズ株式会社	1
	株式会社 一条工務店	1
	株式会社 竹中工務店	2
	株式会社 錢高組	1
	三菱電機ビルテクノサービス株式会社	1
	鹿島建設株式会社	1
	住友林業株式会社	1
	太平工業株式会社	1
	大成機工株式会社	1
	北海電気工事株式会社	2
製造業	NOK株式会社	1
	TOTO株式会社	1
	キヤノン株式会社	1
	サッポロビール株式会社	2
	サノフィ・アベンティス株式会社	1
	シンセス株式会社	1
	トッパン・フォームズ株式会社	1
	ニプロ株式会社	1
	バイエル薬品株式会社	1
	レンゴー株式会社	1
	旭イノベックス株式会社	1
	旭硝子株式会社	1
	株式会社 DNP北海道	1
	株式会社 IHI	1
	株式会社 オンワード樫山	2
	株式会社 トーモク	2
	株式会社 リコー	1
	株式会社 神戸製鋼所	1
	株式会社 東芝	1
	株式会社 明治	1
	協和発酵キリン株式会社	1
	三井農林株式会社	1
	三菱レイヨン株式会社	1
	三菱重工業株式会社	1
	三菱電機株式会社	4
	雪印メグミルク株式会社	1
	川崎重工業株式会社	1
	総合商研株式会社	1
	第一鉄鋼株式会社	1
	日本たばこ産業株式会社	3
	日本甜菜製糖株式会社	1
	吉野石膏株式会社	1
電気・ガス・熱供給・水道業	苫小牧ガス株式会社	1
	北海道ガス株式会社	1
	北海道電力株式会社	3
情報通信業	KDDI株式会社	1
	エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社	1
	エヌ・ティ・ティ・データ・フォース株式会社	1
	エヌ・ティ・ティ北海道テレマート株式会社	2
	ソフトバンクモバイル株式会社	1
	株式会社 HBA	2
	株式会社 Speee	1
	株式会社 TKC	1
	株式会社 アイティ・コミュニケーションズ	1
	株式会社 インテック	1
	株式会社 エイチ・エル・シー	1
	株式会社 エクスプローラ	1
	株式会社 エヌ・ティ・ティ・データ北海道	1
	株式会社 エヌ・ティ・ティ・ドコモ	1
	株式会社 オールアバウト	1
	株式会社 シーエスアイ	1
	株式会社 シイエヌエス	1
	株式会社 ジャパンテクニカルソフトウェア	2
	株式会社 セラク	1
	株式会社 ネクスト	2
	株式会社 ファイバーゲート	1
	株式会社 ペイロール	1
	株式会社 ランドコンピュータ	1
	株式会社 日立ソリューションズ	2
	株式会社 富士通北海道システムズ	2
	株式会社 北海道CSK	3
	三菱UFJインフォメーションテクノロジー株式会社	3
	東日本電信電話株式会社	7
	日本コンピューター・システム株式会社	1
	富士通エフ・アイ・ピー株式会社	1
	北海道日本電気ソフトウェア株式会社	3
	北海道文化放送株式会社	1
運輸業・郵便業	ヤマト運輸株式会社	3
	近海郵船物流株式会社	1
	佐川急便株式会社	1
	全日本空輸株式会社	1
	東日本旅客鉄道株式会社	1
	北海道国際航空株式会社	1
	北海道中央バス株式会社	2
	北海道旅客鉄道株式会社	1
	澁澤倉庫株式会社	2
卸売・小売業	イオン北海道株式会社	1
	キヤノンマーケティングジャパン株式会社	2
	コクヨマーケティング株式会社	1
	サントリーフーズ株式会社	1
	シュレン国分株式会社	1
	トヨタカローラ札幌株式会社	1
	ネッツトヨタ道都株式会社	1
	パナソニック電工リビング北海道株式会社	1
	ハミューレ株式会社	2
	フラワーヒルズ株式会社	1
	ホーマック株式会社	2
	ユニ・チャーム株式会社	1
	リコージャパン株式会社	1
	株式会社 セイコーマート	1
	株式会社 ダイイチ	1
	株式会社 ニトリ	1
	株式会社 ポイント	1
	株式会社 モロオ	3
	株式会社 ラルズ	1
	株式会社 栗林商会	1
	株式会社 札幌丸井三越	1
	株式会社 三星	1
	株式会社 三洋販売	1
	株式会社 西條	2
	株式会社 丹波屋	3
	株式会社 鉄建	1
	株式会社 日本アクセス	1
	佐鳥電機株式会社	1
	阪和興業株式会社	1
	札幌トヨペット株式会社	1
	三菱電機住環境システムズ株式会社	2
	小柳協同株式会社	1
	新東実業株式会社	1
	生活協同組合コープさっぽろ	2
	双日株式会社	1
	東邦薬品株式会社	1
	東洋冷蔵株式会社	1
	日藤株式会社	1
	日本ヒューレット・パッカード株式会社	1
	富士ゼロックス北海道株式会社	1
	北ガスフレアスト南株式会社	1
	北海道キヨスク株式会社	1
	有限会社 tavenova	1
	有限会社川徳	1
金融業・保険業	1stホールディングス株式会社	1
	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	4
	みずほ証券株式会社	2
	りそなグループ	3
	旭川信用金庫	7
	株式会社 ゆうちょ銀行	1
	株式会社 りそな銀行	2
	株式会社 三井住友銀行	4
	株式会社 三菱東京UFJ銀行	3
	株式会社 七十七銀行	1
	株式会社 商工組合中央金庫	1
	株式会社 損害保険ジャパン	7
	株式会社 日本政策金融公庫	2
	株式会社 北海道銀行	5
	株式会社 北洋銀行	9
	株式会社 北陸銀行	9
	空知信用金庫	4
	札幌信用金庫	3
	三井住友海上火災保険株式会社	2

金融業・保険業	三井住友信託銀行株式会社	3
	三井生命保険株式会社	1
	三菱UFJ信託銀行株式会社	3
	室蘭信用金庫	1
	住友生命保険相互会社	1
	小樽信用金庫	6
	信金中央金庫	1
	帯広信用金庫	2
	大和証券株式会社	1
	第一生命保険株式会社	3
	東海東京証券株式会社	3
	東京海上日動火災保険株式会社	2
	苫小牧信用金庫	3
	日新火災海上保険株式会社	1
	日本銀行	1
	日本生命保険相互会社	4
	日立キャピタル株式会社	1
	農林中央金庫	1
	北央信用組合	2
	北海信用金庫	2
	北海道建設業信用保証株式会社	2
	北海道信用保証協会	1
	北海道労働金庫	3
	北星信用金庫	1
	北門信用金庫	1
	野村證券株式会社	3
	有限会社 北海道鑑定	1
不動産業・物品賃貸業	旭化成株式会社	1
	株式会社 サウンドクルー	1
	株式会社 タカラ	1
	株式会社 共成レンテム	1
	興銀リース株式会社	1
	三菱UFJリース株式会社	1
	大和ハウス工業株式会社	3
	東京センチュリーリース株式会社	1
	日本駐車場開発株式会社	1
	北海道リース株式会社	1
専門・技術サービス業（学術研究）	株式会社 ITコミュニケーションズ	1
	株式会社 吉岡経営センター	2
	株式会社 太陽エージェンシー	1
	株式会社 電通北海道	1
	社会保険診療報酬支払基金	1
	住友電工システムソリューション株式会社	1
	有限会社 三景スタジオ	1
宿泊業・飲食サービス業	株式会社 オリエンタルリゾートアソシエイツ	1
	株式会社 ゼンショー	1
生活関連サービス業・娯楽業	株式会社 JTB北海道	1
	株式会社 マルハン	1
	株式会社 正栄プロジェクト	1
教育・学習支援業	学校法人 河合塾	1
	株式会社 Birth47	1
	株式会社 エルム楽器本社	1
	株式会社 トゥルーカラーズ	1
	株式会社 ファミリー	1
	株式会社 れんせい	1
	株式会社 秀英予備校	2
	株式会社 進学会	1
	国立大学法人小樽商科大学	1
	国立大学法人北海道教育大学	1
	中央出版株式会社	1
医療・福祉	アースサポート株式会社	1
	医療法人 新産健会	1
	社会医療法人　製鉄記念室蘭病院	2
	社会福祉法人 青十字サマリヤ会	1
	社会福祉法人 函館厚生院　函館中央病院	1
	北海道社会保険病院	1
	北海道赤十字血液センター	1
複合サービス事業	あさひかわ農業協同組合	1
	きたそらち農業協同組合	1
	広尾漁業協同組合	1
	青森県信用組合	1
	全国共済農業協同組合連合会	1
	全国酪農業協同組合連合会	1
	大学生協北海道事業連合	1
	北海道漁業協同組合連合会	1
	北海道国民健康保険団体連合会	1
	北海道信用漁業協同組合連合会	1
	郵便局株式会社	1
サービス業（他に分類されないもの）	株式会社 JALスカイ札幌	1
	株式会社 アド・ダイセン	1
	株式会社 新和グローバル	1
	綜合警備保障株式会社	1
	帯広商工会議所	1
公務（他に分類されるものを除く）	旭川市役所	4
	海上自衛隊	1
	京極町役場	1
	恵庭市役所	1
	江差町役場	1
	航空自衛隊	1
	国税専門官	5
	砂川市役所	2
	裁判所事務官	1
	札幌市消防局	1
	札幌市役所	13
	小樽市役所	1
	総務省　北海道管区行政評価局	1
	長沼町役場	1
	東京消防庁	1
	苫小牧市役所	2
	函館地方検察庁	1
	法務局	1
	北海道警察	8
	北海道公安調査局	1
	北海道庁	3
	北斗市役所	1
進学	小樽商科大学大学院　アントレプレナーシップ専攻	2
	小樽商科大学大学院　現代商学専攻	2
	東京大学公共政策大学院	1
	北海道大学　会計専門職大学院	1
	北海道大学公共政策大学院	1
	北海道大学大学院　教育学研究院	1
	北海道大学大学院　情報科学研究科	1
	北海道大学大学院　文学研究科	1

【大学院修了者就職先】

株式会社オリコム　札幌支社	1
永山ファミリー歯科クリニック	1
医療法人渓仁会　西丸山病院	1
㈱ BELL24 Cell Product	1
北海道ワイン㈱	1
医療法人財団 夕張希望の杜	1
中小企業基盤整備機構 北海道支部	1
北海道国際航空㈱	1
小樽商科大学　職員	1
株式会社 神戸製鋼所	1
医療法人社団 林下病院	1
㈱札幌ドーム	1
㈱セイコーマート	1
北海道工業大学 職員	1
株式会社 北海道スタイル	1
明光義塾 江差教室	1
コンチネンタル貿易㈱	1
酪農学園大学 職員	1
㈱大丸 札幌店	1
㈱スタッフアイ	1
ニセコビレッジ㈱	1
株式会社 ニトリ	1
札幌市簾舞児童会館	1
住友林業㈱	1
北海道旅客鉄道㈱	1
㈱エスプランニング	1
㈱北海道中小企業診断士会	1
株式会社 野村総合研究所	1
株式会社 北海道ジェイ・アール商事	1
本部三慶株式会社	1
医療法人　北海道家庭医療学センター	1
同交会病院	1

わが緑丘撤収の記

平成24年2月8日

経済学科特任教授
加藤　睦洋

とうとうこの日がやってきた。正直言って，まだまだ元気なのに残念だ。しかしやむをえまい。昭和53年赴任以来三十有余年，いたずらに馬齢を重ねたようだ。「感想は？」と聞かれれば，「光陰矢のごとし。」「少年老い易く，学成り難し。」といった月並みな言葉しか思い浮かばない。大病せずに定年を迎えられたのだから，まあよしとしよう。昔「放送禁止歌」などという奇歌の一節に「定年退職，茫然自失」とあったが，私は何とも思っていない。これは商大に対する忠誠心不足なのであろうか？自分でもよく分からない。もう少し商大に貢献できれば良かったのにと思うこの頃だが，今更どうしようもない。

学生さんの授業アンケート結果では，私は商大教員の中でも一番受けの悪かった教員であろう。その意味では学生さん方にとっては私の退職は朗報であろう。私の評判が悪いのは，一部は私のキャラクターによるものであろうが，少なからざる部分は経済理論の持っている抽象論理的性格によるものであろう。「経済学を科学に」というのは，ここ百年余りの経済学の歴史の大きな流れなのであるが，文科系のアタマの方々にはどうもなじめないようだ。昔の授業では微分方程式の解法を教え，学生さんはそれを理解できたというのがまるで夢物語のようである。今では関数とは何かが分からず，反比例のグラフ（双曲線）を描けない学生さんも珍しくなくなった。昔読んだ会田雄次の「アーロン収容所」の中に「英兵は簡単な計算ができない」とあったくだりをつい思い起こしてしまうが，これはわが国も戦勝国のレベルまで落ちてきたとして慶賀すべきことなのであろうか？まあこれも時代の流れ。残念！

さて私はなぜここにいるのであろうか？思い起こせば高校3年生のとき，本を買うため（札幌）丸善に寄り，帰ろうと思って出口を通ろうとしたら，そこに岩波新書が陳列してあった。そこで「ケインズ」というタイトルが目に入った。ケインズというのは，政治経済倫理社会の教科書に載っていた英国の経済学者の名前ではないか。私はそれまでスミスやマルクスの名は知っていたが，ケインズが何者かは知らなかったので手にとって見たら「へー，経済学ってのは以外に面白いんだ。」と思ったのがその後の私の人生を決めた。（因みに学生さん方は「経済学は面白くない・役に立たない！」と言う。）今までいろいろなことを考えてきたが，一番思い出に残る研究は最近5年間ほど手がけてきた消費理論の論理的基礎の補強作業である。故に私の場合，黄金時代は還暦の頃から到来した。それまでは鉛の時代だったとは言わないが，まあアルミの時代くらいであろうか。紙幅もなくテクニカルになるのでちょっとだけ書くと，無限及び有限視野の消費者の生涯最適化問題（消費・貯蓄決定問題）を関数形を特定化して解き，得られた個別消費関数を集計するということを5年もかかってエッチラエッチラとやってきたのである。その目的とするところは，クズネッツの発見した消費パズル（特にマクロの長期平均消費性向の驚くべき安定性）の数学的に厳密な解決である。この分野では既にモデイリアーニ・ブランバーグ・フリードマンがライフサイク

ル・恒常所得仮説を提出し一定の解決をみたとされている（ノーベル賞までもらっている）が，論理の厳密性に乏しくまだまだ未解決である。（実証面ではホールの合理的期待＋マルチンゲール仮説以来の目覚しい発展があるが，私は理論一辺倒である。というより計量分析はできないのである。）私が努力したのは，正確な集計計算の実行とパズルが解決されるための十分条件の発見である。

さて残りスペースも少なくなってきた。思い返せば，多くの先生方，事務職員の方々のお世話になった。感謝の言葉も無い。そして私の下手くそな講義を熱心に聞いてくれた学生の皆様方には更に更に謝意を表したい。（もっとも経済学教育の専門雑誌によれば，教師が良いと思っている授業を，学生は必ずしも良いとは思っていないそうである。学生がよく言う「教師の自己満足」と言う奴である。「良い」というのは，自分が学生だったら良いと思うの意であろうが，大部分の学生は学者にはならないのである。）私の後任者も決まったそうであるから，来年度からはきっと著しい改善効果が見られるであろう。楽しみだ。

さてここまで来ると，最後に商大の将来そして日本の将来のことが気にかかる。どちらもこれからの人々に奮励努力してもらうよりほかはない。近年の日本を見ていると退廃劣化が著しいと私の目には映る。（老婆心であればよいのだが。）よく知られた説によれば，近現代の日本は40年のスパンで浮沈を繰り返しているという。これによればバブル破裂（1990年）以来まだ22年であるから，あと20年ほどは下り坂ということになる。いうところの「下山」期がまだ続くという訳だ。世界には米国の如く将来像が見え易い国もあるが，日本に関しては行方も知れないというべきであろう。30年，50年後の日本を今知ったら驚愕すべき国家になっているであろう。その姿を私が見ることはないであろうが「宜しく頼むよ。」と言うよりほかはない。今の若い諸君には想像もつかないだろうが，私の幼少時には高度500メートル位で（札幌）美香保公園上空あたりに飛んできた米軍輸送機から落下傘降下訓練が行われていた。（着地点は札幌飛行場（現在の札幌北高校＝わが母校の所在地））米兵たちは風に流されて横に飛んでいくのである。（今にして思えばあの連中も朝鮮に投入されて死んだのであろう。）そんなことを言ったら，私の父は北京市中で武装行進をしたそうだ。（断っておくが私の父は中国人ではない，帝国陸軍軍人として北支那方面軍にいたのだ。）この世の中，何が起こるか分からない。今の私の願いは，第3次世界大戦の起こらないことを祈るのみである。年齢的に言って私が一足先に三途の川を渡るであろうから，あの世とやらで待っています。（閻魔大王には暇を出しておきますのでご安心を。）

退職にあたって

平成24年2月8日

一般教育等　特任教授
片岡　正光

「光陰矢のごとし」。私が本学に化学担当の教授として赴任してから，早いもので22年の月日が経過しました。

私は，平成2年3月までは，北海道大学理学部化学科分析化学講座に文部教官助手として在職しており，専ら水溶液中の目的とするイオンに選択的かつ高感度に応答するポテンシオメトリック化学センサーの開発と，それらの応答機構解明の研究に没頭しておりました。とは言っても決して研究のみで学生の教育をおろそかにしていたわけではなく，多くの学部４年次生，修士課程，博士課程の学生，留学生などに囲まれて，彼らの研究についての助言や指導などでほとんどの時間を大学で過ごす充実した日々を送っていました。

ある時，一念発起して海外留学を決意，電気化学分析の分野では世界的に有名な，ニューヨーク州立大学バッファロー校のロバート＆ジャネットオスターヤング夫妻の研究室へ2年間の予定で留学しました。海外での研究生活にようやくなじんできた矢先，所属講座の教授の高専校長としての栄転が急に決まり，滞在1年で泣く泣く北大に呼び戻されました。その後講座には東京大学からの教授が赴任し，スタッフが次々と東大勢に入れ替わったため，思い悩んだ末転出を決意し，いくつかの大学にアプリケーションを提出し，一番先に化学担当教員として採用の通知をいただいた本学に喜び勇んで赴任致しました。

本学での教育は，化学を受験科目としていない多くの学生に，化学全般を広く浅く，しかし化学に興味を持たせるよう講義しなくてはなりません。北大での専門領域を狭く深く教える教育ばかりを行ってきた私は戸惑いました。赴任してから2年間，他大学の先輩教員の執筆による教科書を使用して講義を試みましたが，私にとってはしっくりいかず悩みました。そこで講義しやすい教科書を自ら作成することを思い立ち「教養の現代化学」「生活と環境を考える化学」の2種類の教科書を他大学の教員の協力を得て完成しました。

本学学生の化学の履修率は，理系の選択科目であるにもかかわらず高いと思われます。その最大の理由は，努力によって確実に単位を獲得できるシステムにあると思われます。講義ではTAを動員して毎回きっちりと出席を取っています。そして出席回数を出席点として期末の試験の点数に加算しています。つまり出席をして，私の講義に耳をかたむけることによって，単位を取りやすくしているのです。何故そんな事までして化学を履修させるのかといぶかしくお思いかも知れません。私は，化学が現代の社会で仕事をし，生きていく上で

は文系理系を問わず非常に大切な科目であると考えています。本学を卒業して社会に出た学生が，いろいろな場面で化学を基礎にした考え方ができ，化学を履修しておいて良かったと実感する機会に必ずや遭遇することがあると信じています。

私は，日本化学会，日本分析化学会，電気化学会に学生の頃から所属して学会活動を継続してきました。私がこれらの学会本部から表彰を受けたことは，大きな慶びでありかつ励みになりました。日本化学会からは，化学教育分野での活動が評価されて「化学教育賞」の受賞がきまり，その年度の会長であったノーベリストの野依先生より直接表彰状をいただく機会を得ました。また，日本分析化学会からは，本学を会場にした分析化学討論会を企画し盛会に導いたことや北海道支部長としての功績など，長年の学会活動が評価されて「分析化学功労賞」をいただきました。また，電気化学会からは「佐野賞」をいただくなど，所属3学会から表彰を受けました。

また本学での大変楽しかった思い出は，昼間・夜間主コースを問わず毎年卒業研究を開講し，多くのゼミ

生と一緒に学び・研究できたことです。喜ばしいことに，その内の5名が北大の理系の大学院修士課程に進学し，すでに博士号を得た学生や現在博士論文をまとめている学生を排出しています。

本年3月で思い出深い本学を離れるわけですが，本学には立派な化学研究室が存在します。また，繰り返しになりますが，物事を化学の目で理解することは文系の学生であっても必要です。私の後任となる教員も，是非とも化学教育を最優先にして活躍していただきたいと念じております。

小樽商大の恵み

平成24年2月8日

アントレプレナーシップ専攻特任教授
相内　俊一

私が小樽商大に赴任したのは，1998年春でした。北大法学部で助手をした後，北海道教育大学岩見沢校に17年間勤めていたので，年齢は51歳。しかも，移籍の元も先も，道内の国立大学です。国立大学間の人事異動で事務官たちは相互によく知っていて，公式にも非公式にも情報交換が盛んですから，私が商大の教員募集に応じれば，成功しても失敗しても双方の大学に知られるのは明白でした。そんな中で商大に応募するには，ちょっとした覚悟が必要だったのです。

にもかかわらず，私を商大に惹きつけた第一の魅力は学生たちでした。私は，1年おきくらいのペースで，非常勤講師として商大で政治学を教えていたのですが，96年の前期に教えた学生たちが実にのびのびとよく勉強してくれて，心から教えるのが楽しいと感じていました。非常勤講師をした大学で，学期の終わりに学生たちとコンパをしたのは，後にも先にもこの時だけです。もちろんその時には，将来私が商大に移ることになるなど，夢にも思いませんでした。

私にとっての商大のもう一つの魅力は，当時の学長，山田家正先生の大学運営の姿勢です。外から見ていただけではありますが，札幌市内にサテライトを設けるなど，大学の特色を積極的に追求する学長のいる大学には，大いに関心がありました。

私は，出身大学が国際基督教大学（ICU）で，私が在学していたころは，1学年250人で全学でも1000人余りのサイズでした。学生同士も互いによく知っていましたが，学生と先生との距離も近く，講義やゼミの時以外にも指導を受けたり議論をしたりする機会がありました。そんな「原体験」のせいか，私は小規模な大学にいるほうが快適なのです。私にとっての商大の魅力は，このサイズでもありました。

商大で最初に私を迎えてくれたのは，96年に非常勤で来たときに受講した学生たちでした。私の研究室への本の搬入を手伝おうと，1号棟の入り口で待ち構えていてくれたのです。これには感動しました。ゼミ生でもなかったのに，彼らは今でも夏休みに尋ねてきます。そして，最初の歓迎会は，秋山義昭先生をはじめとする教官テニス同好会の皆さんでした。商大には，このようにインフォーマルなネットワークで温かく迎えてもらったのです。

政治学のゼミは，学生の鬼仏表では「大鬼」とされているらしく，受講生の数は多くありません。多い年で6人くらい，1人の年もありました。学生は少数精鋭で，良く考え，良く学んでくれたと思います。私が赴任した年に入学した学生が最初のゼミ生でしたが，その学年の仲良し3人組は，近況を寄せ書きしたカードを私の誕生日に届くよう毎年送ってくれています。彼らも卒業して10年。転職したり，更に学校に行ったり，子どもが生まれたりと，豊かでた

くましい人生を知らせてくれています。

専門職大学院（ビジネススクール）の新設と同時に，大学院専任の教員にコンバートされましたが，学部での教育負担はほとんどそのままで，大学院の講義が加わりました。私の学部のゼミ生の中からも，3人がビジネススクールに進学しました。

スコットランドに調査に行った帰りに，イングランド中部のシェフィールド大学に寄って，日本研究センターで学ぶ学生と商大生の交換留学制度の下交渉をし，次の年に協定が結ばれました。私のゼミからも2人がシェフィールド大に留学し，その経験を生かして外資系企業や日本企業の貿易部門で活躍しています。苦労して協定を結んだ甲斐がありました。

ビジネススクールでは，パブリックマネジメントを担当。この科目を履修した修了生を中心に，5年前から研究会が毎月開かれるようになりました。この研究会のメンバーの中から，私が退職後も取り組もうとしているソーシャルビジネスの推進事業のための，NPO法人の設立に協力してくれる人が出てきました。

私の在職最後の年に，商大は創立百周年を祝いました。その行事の一つに，記念音楽祭を催したのですが，ここで「第九」を演奏できたこと，学生オーケストラが一時

の危機を乗り越えて大きく成長してくれたことは，講義以外の出来事の中で最高の喜びでした。

振り返ると，商大に来て以来，最初から最後まで，私は温かいネットワークに支えられてきました。私が大学のために貢献できたことの何倍もの恵みを受けたことは，大変だったことをすべて忘れさせるものだと心から感じています。

教員名簿

平成24年3月16日現在

学　長	山　本　眞樹夫
副学長（総務・財務担当）	和　田　健　夫
副学長（教育担当）	大　矢　繁　夫
副学長（大学評価・中期目標担当）	奥　田　和　重

（ダイヤルイン　0134-27- 内線番号）

ー　商　学　部　ー

経　済　学　科

基礎経済学

教　授	今　西　　一	5301
教　授	江　頭　　進	5300
特任教授	加　藤　睦　洋	5303
教　授	寺　坂　崇　宏	5315
教　授	花　田　功　一	5308
教　授	平　井　　進	5323
教　授	松　家　　仁	5321
教　授	山　本　賢　司	5309
准教授	劉　　慶　豊	5312
准教授	水　島　淳　恵	5311

応用経済学

特任教授	鵜　沢　　秀	5310
教　授	佐　野　博　之	5304
教　授	柴　山　千　里	5313
教　授	澁　谷　　浩	5314
教　授	船　津　秀　樹	5318
教　授	和　田　良　介	5319
教　授	横　田　宏　治	5324
准教授	中　村　健　一	5317
准教授	廣　瀬　健　一	5365
准教授	小　島　直　樹	5305
助　手	國　本　さおり	5320

商　学　科

商　学

教　授	穴　沢　　眞	5328
教　授	伊　藤　　一	5329
教　授	高宮城　朝　則	5330
教　授	中　浜　　隆	5331
教　授	PRAET Carolus Ludovicus Constantinus	5349
准教授	CLYMER Neil Edward	5337
准教授	西　本　章　宏	5340

経　営　学

教　授	小　田　福　男	5333
教　授	金　　鎔　基	5335
教　授	高　田　　聡	5336
准教授	加賀田　和　弘	5334
准教授	加　藤　敬　太	5344

会　計　学

教　授	乙　政　佐　吉	5341
教　授	坂　柳　　明	5339
准教授	石　川　　業	5348

企　業　法　学　科

基　礎　法

教　授	石　黒　匡　人	5359
教　授	佐古田　　彰	5362
教　授	林　　誠　司	5363
特任教授	結　城　洋一郎	5358
准教授	岩　本　尚　禧	5368
准教授	小　倉　一　志	5354
准教授	小　島　陽　介	5355
准教授	南　　健　悟	5353
助　手	松　浦　ゆかり	5372

企　業　法

教　授	片　桐　由　喜	5367
教　授	多　木　誠一郎	5374
准教授	河　野　憲一郎	5379
准教授	河　森　計　二	5361
准教授	國　武　英　生	5360
准教授	小　林　友　彦	5380
准教授	才　原　慶　道	5371

社会情報学科

計画科学

教　授	小笠原　春　彦	5376
教　授	中　村　隆　志	5377
教　授	行　方　常　幸	5382
准教授	石　井　利　昌	5389
准教授	大　津　　晶	5395
助　教	飯　田　浩　志	5394
助　教	佐　藤　　剛	5396

組織と情報

教　授	持　田　泰　昭	5386
教　授	平　澤　尚　毅	5397
准教授	阿　部　孝太郎	5378
准教授	深　田　秀　実	5399

社会と情報

教　授	加　地　太　一	5390
准教授	木　村　泰　知	5388
准教授	佐　山　公　一	5391

准教授	沼澤政信	5385
准教授	三谷和史	5392
助教	芳澤聡	5398

一般教育等

哲学		
教授	久保田顕二	5401
心理学		
教授	杉山成	5402
文学		
教授	中村史	5404
歴史学		
教授	荻野富士夫	5405
社会学		
特任教授	宝福則子	5407
准教授	西永亮	5417
教育学		
教授	上野耕三郎	5400
教授	岡部善平	5418
数学		
特任教授	兼岩龍二	5409
准教授	米田力生	5413
物理学		
准教授	杉之原立史	5411
化学		
特任教授	片岡正光	5412
生物学		
教授	八木宏樹	5410
保健体育		
教授	中川喜直	5415
教授	花輪啓一	5416
准教授	石﨑香理	5408

言語センター

個別言語部門

英語		
教授	大島稔	5420
教授	CALUIANU Daniela	5422
特任教授	杉村泰教	5421
教授	羽村貴史	5424
教授	山本久雄	5425
教授	吉田直希	5426
教授	BACKER-HOLST Mark Anthony	5443
准教授	THURMAN John Phillip Jr.	5435
助教	FAROUCK Ibrahim	5427
ドイツ語		
教授	鈴木将史	5428
教授	副島美由紀	5429
フランス語		
教授	江口修	5430
教授	尾形弘人	5431
スペイン語		
教授	山田眞史	5432
ロシア語		
准教授	山田久就	5437
中国語		
教授	裴峥	5436
准教授	嘉瀬達男	5433
日本語		
教授	高野寿子	5434

応用言語部門

特任教授	髙井收	5439
准教授	CLANKIE Shawn Michael	5419

比較言語文化部門

特任教授	君羅久則	5440
教授	高橋純	5441

保健管理センター

教授	菅原照夫	5466

ビジネス創造センター

教授	澤田芳郎	5294
准教授	山田菊子	5292
助手	今野茂代	5290

アントレプレナーシップ専攻

特任教授	相内俊一	5403
教授	奥田和重	5387
教授	小林敏彦	5423
教授	近藤公彦	5326
教授	齋藤一朗	5345
教授	瀬戸篤	5306
教授	玉井健一	5332
教授	出川淳	5384
教授	中村秀雄	5357
教授	西山茂	5307
教授	籏本智之	5347
教授	山本充	5381
教授	李濟民	5338
准教授	堺昌彦	5352
准教授	福重八恵	5498
准教授	保田隆明	5499

教育開発センター

助教	辻義人	5464

小樽商科大学学術研究奨励事業

第6回「学生論文賞」

■ 総評

学生論文賞実施委員会
委員長　中村 秀雄

今年度は，学部生部門に54編，大学院生部門に1編と，昨年度より10編多い計55編の応募がありました。本論文賞がますます教員，学生に知られてきたことを示しています。所属学科では社会情報学科が23編と最多で，続いて商学科から21編，経済学科から7編，企業法学科からも3編の応募がありました。大学院生の部では，現代商学専攻の学生ひとりから応募がありました。

論題は「社会貢献」，「雇傭」，「労働環境」，「街おこし」，「地方議会」，「生活」，「学習」，「金融」などの分野にわたり，商大生の社会的関心の広さを示していました。中でも「想定外のリスクを把握する」と題して，金融市場の反応を高度な数式を使って分析した「ヘルメス賞」論文をはじめとして，東日本大震災をきっかけとした論文が多かったのは，時代に敏感な商大生としては当然と思われます。東京電力の法的責任の有無を，関係法令の精密な分析をもとに検討した「優秀賞」の論文もその一つでした。また「『従軍慰安婦』問題の補償をめざして―立法不作為論を中心に―」は重い題材を取り上げ，戦後もいまだ続く当事者の様々な問題を冷静に分析し，国民に問題意識を投げかける，商大生の面目躍如たるものだといえます。ワークライフバランスを課題に多くのインタビューを実施した論文，ハンディGPSを使って「観光歩行行動」を計測した論文は，次のステップへの展開が期待されるものです。「ベスト・プレゼンテーション賞」を獲得した「『清田族』の研究」は地方に視点を据えた楽しい発表でした。その他の入賞論文も評価すべきことをたくさん含んでいますが，スペースの関係で全部に触れることができないことが残念です。

さて第1次審査には延べ232名の教員が当たりました（昨年比22人減）。第1次審査はプレゼンテーションにより，与えられた時間の中で，いかに論文の内容と研究の方向性を上手に伝えられるかがポイントです。27編が第1次審査を通過し，第2次審査に進みました。38人の教員で提出された論文の審査を行ないました。論文形式，アプローチ，方法論，テーマ設定，論理構成，独創性，そして何より結論の妥当性などの点から総合的な「質」が評価されます。

厳正な審査の結果，「ヘルメス賞」1編，「優秀賞」6編，「奨励賞」8編，「ベスト・プレゼンテーション賞」1編が選ばれました。特筆すべき論文に与えられる「特別賞」は残念ながら今年も該当がありませんでした。これで4年間続いて「該当なし」ということになります。来年度に期待したいところです。

選にもれた論文の中には，着想は優れているものの，単にデータを羅列するだけで，分析と考察が足りないと思われたものが散見されました。今後の課題というべきでしょう。

本年度もご多忙中，審査にご協力いただいた教員の方々には，厚く御礼を申し上げると共に，来年も是非ご協力いただくようお願いいたします。

最後になりましたが，本事業の実施に当たっては，株式会社北洋銀行様より，例年と変わらぬ多大なご支援を頂戴いたしましたので，特記して感謝の意を表します。

■ 審査担当教員

江頭　進，中村健一，水島淳恵，劉　慶豊，和田良介，大矢繁夫，小田福男，加賀田和広，加藤敬太，金　鎔基，高宮城朝則，西本章宏
石黒匡人，片桐由喜，河森計二，小倉一志，小島陽介，小林友彦，林　誠司，和田健夫，阿部孝太郎，石井利昌，大津　晶
小笠原春彦，木村泰知，佐藤　剛，佐山公一，行方常幸，沼澤政信，深田秀実，持田泰昭，芳澤　聡，岡部善平，荻野富士夫，杉山　成
宝福則子，大島　稔，嘉瀬達男，山田久就，相内俊一，奥田和重，近藤公彦，齋藤一朗，堺　昌彦，中村秀雄，西山　茂，籏本智之
福重八惠，保田隆明，澤田芳郎，辻　義人，神崎稔章，渡久地朝央（以上53名）

■ 審査結果

学部生部門

ヘルメス賞（1 編）

・想定外のリスクを把握する	東川拓也 , 帰山一馬 , 下山　諒 , 三宅章太

優秀賞（6 編）

・「従軍慰安婦」問題の補償をめざして　ー立法不作為を中心にー	石川まりあ
・地方議会会議録からの要求抽出	葦原史敏
・福島原発事故における東京電力の責任と損害賠償の仕組み	成田由和
・小樽市の中小企業のワークライフバランスに関する調査	田中綾乃
・観光歩行行動における３次元可視化分析手法の提案	奥野祐介
・学生団体の SNS を利用したコミュニケーションの構造化	原田卓弥

奨励賞（8 編）

・アパレルショップにおける最適な店頭レイアウトについて	峯　菜月
・「清田族」の研究（※ ベストプレゼンテーション賞同時受賞）	佐々木悠美
・最適な上水道供給網の構成に関する数理的分析	田中涼祐
・クックパッドのケース分析　ー業界トップの要因と今後の課題ー	山口未有
・リース業界の競争戦略　ー東京センチュリーリースのケース分析ー	田村隆宏
・育児支援策と業績の関係	松田奈々 , 側瀬沙季子 , 石田莉菜 , 高橋六花
・政治問題の地域差についての考察	宮津有沙
・市民の意向を考慮した JR 小樽エキナカビジネスの店舗選定の検討	鈴木郁美 , 金子詩帆 , 笹木遼平 , 村田誠将

大学院生部門

該当なし

学術研究奨励金／ヘルメス賞:10万円、優秀賞:5万円、奨励賞：1万円、ベストプレゼンテーション賞：1万

小樽商

OTARU UNIVERSITY

北に一星あり 小な

科大学
OF COMMERCE

れど その輝光強し

卒業後に卒業証明書等が必要になったとき

1 請求方法

1. 郵送を希望する場合

次の事項を記入した申込書（自由書式）と本人を確認できる証明書（運転免許証，健康保険証等）のコピー，返信用封筒（長形3号・返信用切手貼付）を同封のうえ，下記請求先宛に送付してください。本学に到着後，翌日には発送します。（土，日，祝日をはさむ場合は，その翌日発送になります。）単位修得証明書においては1週間程度かかることがあります。お急ぎの場合は，速達でお申込ください。その場合は返信用封筒にも速達料金の切手を貼付願います。なお，各種証明書の発行手数料はかかりません。

① 学生番号（わかる場合），氏名（フリガナ）※，生年月日，連絡先，入学年度，卒業（修了）年度
② 証明書の種類（卒業・修了証明書，成績証明書等）
③ 英文，和文の区分及び必要枚数
④ 使用目的

※卒業後に改姓した場合は，卒業時の姓（旧姓）を記入してください。また，本人を確認できる証明書と一緒に，改姓を証明できる戸籍抄本のコピーを添付して請求してください。
※証明書はすべて学位記に記載されている氏名となっています。
※英文証明書の場合には，氏名の英文表記を記入してください。
※証明書の厳封を希望される場合には，その旨を申込書に記入してください。

返信用封筒の切手料金

	合計枚数	料　金
定型郵便物	3枚まで	80円
	8枚まで	90円
定型外郵便物	9枚～	140円
国内速達郵便	上記金額に一律270円を加算してください	

（平成24年3月現在）

2. 窓口に取りにこられる場合

上記事項を事前に電話，ＦＡＸ又はＥメールでお申込の上，本人を確認できる証明書（運転免許証，健康保険証等）を持参し学生センターへお越しください。

2 請求者

卒業生本人（代理人が請求する場合は，卒業生本人から請求委任された文書と本人との関係を明記したものを同封してください。）

3 請求先

住所　〒047－8501　小樽市緑3丁目5番21号
小樽商科大学学務課学務企画係
TEL 0134-27-5236・FAX 0134-27-5243
アドレス g-kikaku@office.otaru-uc.ac.jp

※上記の内容は大学のHPでもご覧になれます。申し込み用紙のダウンロードもできます。
http://www.otaru-uc.ac.jp/campus/syomeisyo/seikyuu.html

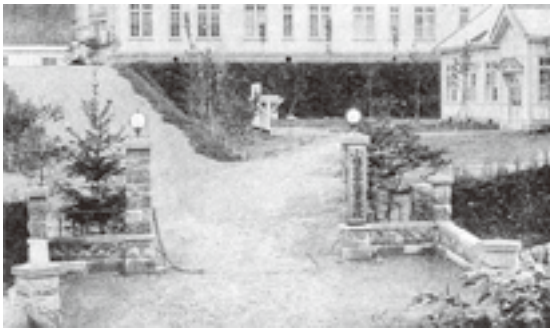
写真でみる小樽高商・商大小史 ㉝

百年史編纂室

正門

小樽商科大学には門がひとつしかない。ひとつしかない門，正門は，実は時間の経過とともに変化している。現在の門は，ある一時期のイメージの復元である。門柱の先にあった電灯のデザインはどのくらい違うのだろうか。

創立当初は，むかって右側に木製の大きな看板が見える。「小樽高等商業學校」という達筆の楷書は，西尾広によるものか。草創期に書道を教え，書記も兼任することになる人物である。



1911 年ごろ。写真集『北に一星あり』に掲載された写真の一部分。

一九三六年の行幸のとき，地獄坂を整備したと言われるが，門の位置に変化はないようである。この頃，門横の欄杆（らんかん）のデザインが少し違うように感じられる。なお，御料車は，すでに英国製ロールスロイスではなく，枢軸国ドイツのメルセデスベンツである。

いつのまにか，煉瓦デザインの門柱はなくなり，しばらく門はなかったようである。例えば，一九六七年の『マッキンノン先生小樽商大訪問写真』には門柱が見えない。

いつの頃か，白いコンクリートの四角い門柱が建てられる。そして，現在の門に，変更されていく。

『庶務課アルバム』（HP「緑丘アーカイブズ」）からコピー。
使用されているタクシーの車種から考えると，1980 年代半ばと推測される。

1936年10月9日。『小樽商科大学昭和初期ガラス原版写真集』（HP「緑丘アーカイブズ」）からコピー。

2011年5月，百年史編纂室撮影。写真集『北に一星あり』用に準備したたくさんの写真のひとつ。広角レンズのこれは採用せず。
『北に一星あり』の写真の多くは当然，編纂室自前で電子化してきたものである。HP「緑丘アーカイブズ」でも見られる。

卒業おめでとう！

OTARU UNIVERSITY OF COMMERCE

GAKUEN DAYORI

No.166

学園だより第166号 ●発行／小樽商科大学学務課 〒047-8501 小樽市緑3丁目5番21号 TEL0134-27-5245